

株式会社アイセック・ジャパン 成果発表

2017/9/28

株式会社 アイセック・ジャパン

代表取締役 一瀬 宗也

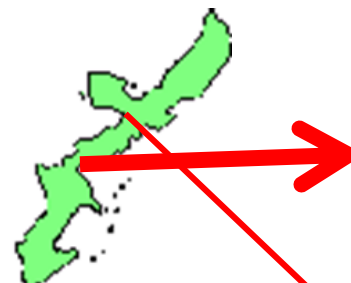
目次

1. 株式会社アイセック・ジャパン 会社概要
2. 「モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)」の背景
3. 「モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)」とは
4. 「e-ミミ」サービスの展開エリア
5. 活用事例
 1. 高校生の授業支援
 2. 議会での事例
 3. 国際会議での事例
6. 今後の展開

1. 株式会社アイセック・ジャパン 会社概要



会社名	株式会社アイセック・ジャパン
所在地(本社)	沖縄県うるま市川崎468番地 いちゅい具志川じんぶん館1F
設立	2008年9月1日
資本金	3,990万円
代表者	一瀬 宗也(いちせ むねや)
主要事業	モバイル型情報保障サービス(e-ミミ) 電話リレーサービス インターネット販売
連絡先	電話:098-972-6888 FAX:098-987-5627 E-mail:iscec-j@iscecj.co.jp



(本社)

「e-ミミ」センターやんばる

沖縄県
名護市



会社名	株式会社アイセック・福井
所在地(本社)	福井県三方上中郡若狭町井ノ口36-3-3
設立	2016年2月18日
資本金	600万円
代表者	一瀬 宗也(いちせ むねや)
主要事業	モバイル型情報保障サービス(e-ミミ) 電話リレーサービス
連絡先	電話:0770-62-1720 FAX:0770-62-1723 E-mail:iscec-f@iscecj.co.jp



(アイセック・福井)

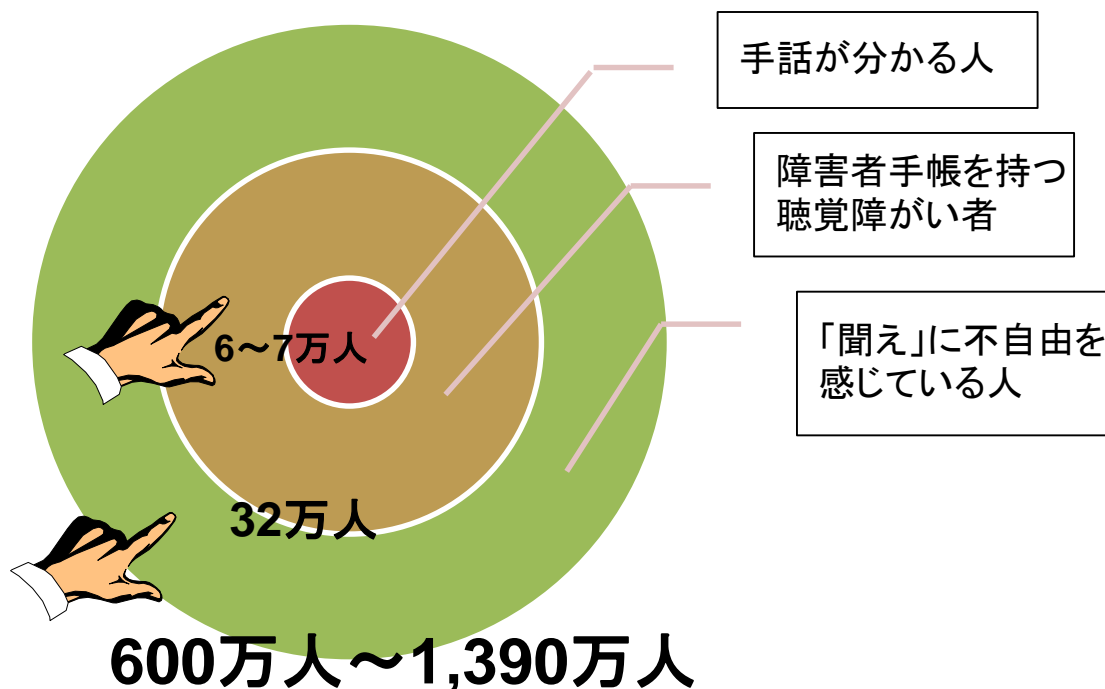
2. 「モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)」の背景

聞こえに問題をお持ちの方は増え続けています

聴覚に障がいがある身体障がい者手帳を交付されているのは約32.4万人です。
そのうち手話が分かるのは約14%の6~7万人程度です。

高齢化社会に伴い、障がい者手帳をもっていなくても聞こえに不自由を感じている方は600万人以上いると言われている。

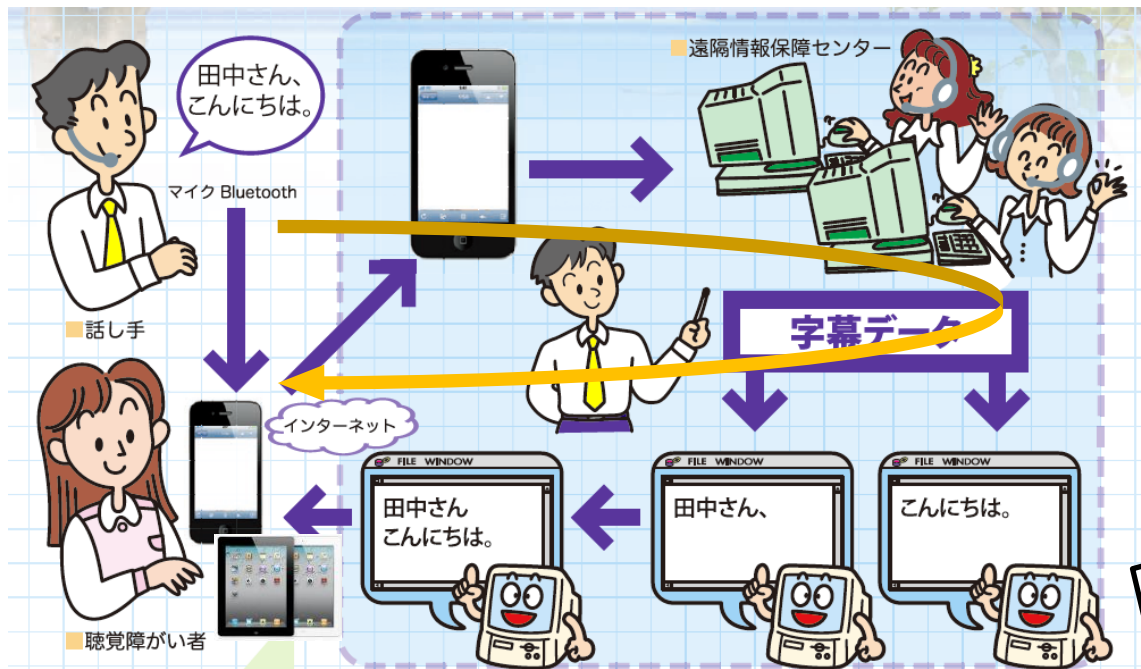
日本補聴器工業会の2012年調査では、1,390万人いると言われています。



3. 「モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)」とは



アイセック
ジャパン

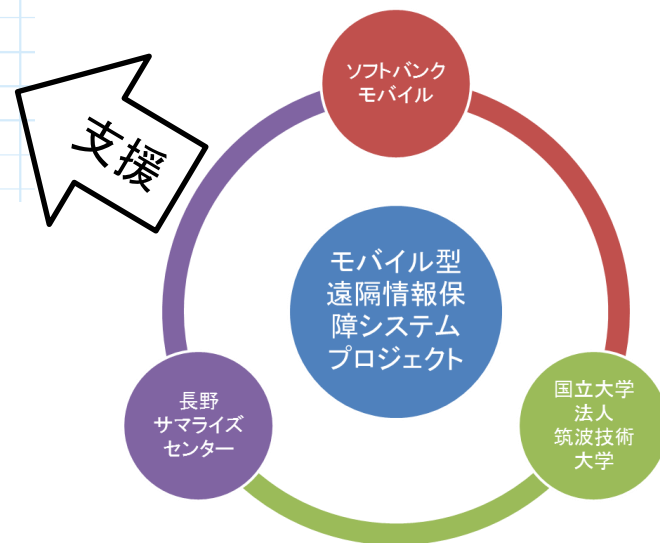


通常2人1組x2で入力
10分で次の組と交代

2009年から2010年にかけて、
国立大学法人筑波技術大学
を中心としたプロジェクトで実
証実験をした仕組み
2011年にプロジェクトに参加

<特長>

1. 機材が手軽: スマホもしくはスマホとタブレットさえあれば、開始できる
2. 正確で早い: センター(うるま市)の文字通訳者による入力
3. 遠隔化: 通信さえ届けば、日本各地・世界各地にサービス提供できる
4. 要約筆記ではなく、基本的に全文入力の文字通訳



3. 「e-ミミ」サービスの展開エリア

<議会>



- ・武雄市議会(佐賀県)
- ・南城市議会(沖縄県)
- ・大田区議会(東京都)
- ・沖縄県議会(沖縄県)
- ・福井県議会(福井県)

<高校・大学>



- ・小平高校/大森高校(東京)
- ・名桜大学(沖縄)
- ・沖縄国際大学(沖縄)
- ・琉球大学(沖縄)
- ・神奈川工科大学(神奈川)
- ・筑波技術大学(茨城)

<各種イベント>



- ・国連防災世界会議(2015年・宮城県)
- ・シンポジウム・セミナー・学会
- ・結婚式
- ・ミュージカル
- ・トークショーなど

<TVやラジオのライブ字幕>



- ・ミキオポスト OnRadio(毎週木曜日20時～)
- ・2016年リオオリンピック(ボランティア)
- ・2016年福井放送年末特番



アイセック
JAPAN
ジャパン

5-1. 高校生の授業支援



南風原高校 H24~2年間 2年次から
成績 全校13位→3位
大学進学決定

コザ高校 H25年~1年間 3年次から
大学進学決定

都立大森高校 H25年~3年間 1年次から
H26年~3年間 1年次から

日体荏原高校 H25年~3年間 1年次から
筑波大学附属坂戸高校 H26年~1年間

中部農林高校 H26年~半年間
都立足立高校 H27年~ 1年次から

都立小平高校 H28年から

大学での利用
筑波技術大学 H25年~
名桜大学 H26年~
神奈川工科大学 H27年~
琉球大学 H28年~1年間

見える授業編(ビデオ)



5-2. 議会での事例

IT（情報技術）関連ベンチャー企業のアイセック・ジャパン（沖縄県うるま市、一瀬宗也社長）は27日、地方議会の議事内容を字幕化し、インターネット中継するサービスを始めると発表した。

地方議会の議事

字幕付けネット中継 アイセック・ジャパン

まず佐賀・武雄市向け
まず佐賀県武雄市議会を6月3日から中継。聴覚障害者の地方政治への参加促進や、字幕情報を議事録作成に活用できる利点などを売り込み、受注拡大を目指す。
第1弾として、佐賀県武雄市議会から業務を受託した。同市議会と社を電話回線などで結び、議事音声を同社担当者が数人で交互に文字情報を入力する。字幕情報は2〜5秒後にネット配信。音声認識技術を使わず、人手で入力するため精度も高いという。
字幕はネット中継のた

め、体の不自由な高齢者が自宅などで閲覧することも可能。字幕情報は随時保存し、議事録の作成にも活用する。
料金は議事録の作成を含め、議事1時間当たり4万〜5万円程度。同社は今年度に2〜3件、来年度には10件程度の受注を目指す。

佐賀県武雄市
開かれた議会
聴覚障がい者の公聴権

議会の議事録の早期完成
3ヶ月から→速報版は当日

本番実施
沖縄県南城市議会
大田区議会
沖縄県議会

6/23から福井県議会のライブ字幕スタート

産 新 聞 2017.6.20(木) 陸 虎 (福井) (第3種郵便物認可)

代表質問を文字通訳

県議会23日から

県議会は、聴覚障害者向けに、6月議会（20日開会）から、本会
議代表質問での発言を文字通訳し、県議会ホームページ（HP）上
に掲載する。23日にお目見えする。「開かれた県議会」の一環で、
県議会事務局によると、都道府県議会では全国的にも珍しいという。
(内田郁恵)

HP掲載、議場でも表示

本会議では、手話通訳は2000
年度から始めており、16年度は延べ
14人が利用した。しかし、リアルタ
イムでの文字情報の提供はできてい
なかった。このため、手話を理解で



模倣質疑が議場のモニ
ターに文字化される様
子（県議会議場で）

より多くの聴覚障害者向け

きない聴覚障害者や、耳が遠くなっ
た高齢者もすぐに理解できるように
と、議会改革の一環として導入を決
めた。

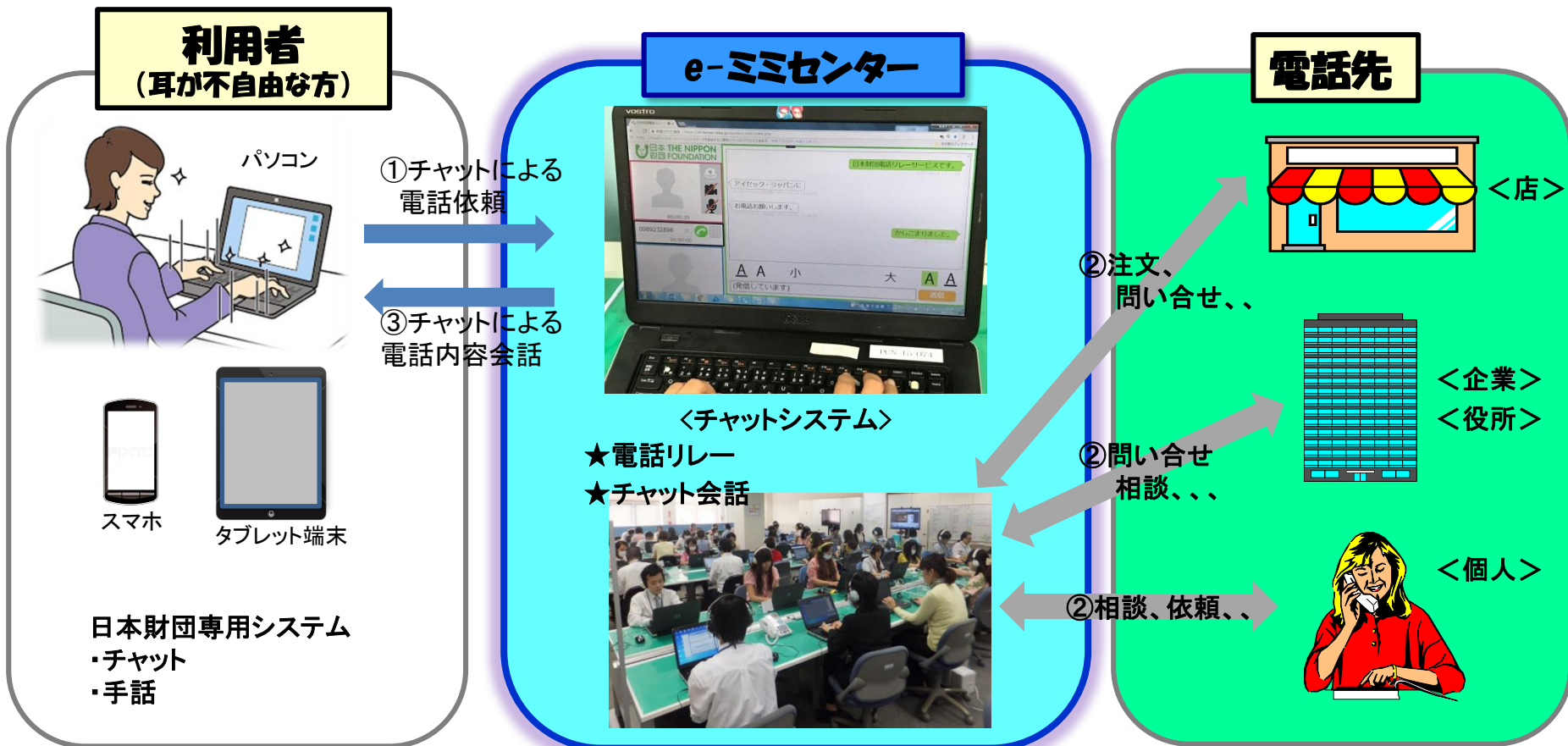
代表質問での質疑、知事ら理事者
からの答弁の音声、ITサービス
業「アイセック・福井」（若狭町）
に携帯電話で送り、同社スタッフが
同時進行で文字化した情報が、数秒
から十数秒後に専用サイトに掲載さ
れる。パソコンやスマートフォン、
タブレットで閲覧できるほか、議場
の傍聴席にも専用モニターが設置さ
れる。

県議会HPでは、02年度から映像
のライブ中継も行われており、文字
表示も同時に閲覧することも可能。
文字データの全文も、公式な記録で
はないが、その日のうちに掲載され
る。県議会事務局は「効果を確認し
た上で、今後、一般質問などへも拡
大するかを見極めたい」とする。

議事録は従来通り作成される。文
字通訳専用サイトへは県議会ホーム
ページからリンクしている。

4. 「電話リレーサービス」の仕組み

ご利用者の代わりに弊社が電話をするサービスです



沖縄と愛知 救助リレー

聴覚障がい者海難

「118」

へつなぐ

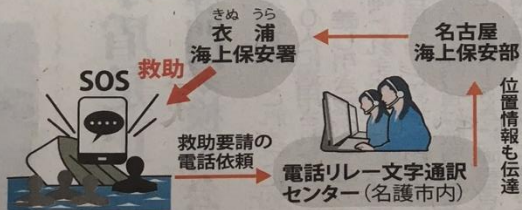
愛知県西尾市一色町沖の三河湾で3日夜、聴覚に障がいのある46〜51歳の男性4人が乗ったプレジャーボートが転覆し、うち1人がスマートフォンで送った救助要請が名護市内の文字通訳センターを介して同地区管轄の海上保安署に伝達、救助された。4人にけがはなかった。オペレーターが機転を利かせ、正確な位置情報を確認し、迅速な救助につなげた。

遭難者が利用したのは聴覚障がい者向けにアイセック・ジャパン（うるま市、一瀬宗也社長）が運営する「日本財団の「電話リレーサービス」。登録利用者からチャットで届く文面をオペレーターが代わりに電話して伝えるサービスだ。「レジャーボートが動か

難者から北緯東経が分かる

県内企業チャットサービス一役

海上遭難者の救助までの流れ



位置情報を確認。管区を割り出して名古屋海上保安部に直接連絡した。救助に当たった同保安部

衣浦海上保安署によると、電話リレーから連絡が入る直前、遭難者の複数の友人が入り、情報が錯綜。友人らも聴覚障がい者で会話が難しく、遭難場所や状況をつかめず、署内は混乱していたという。

同署の森口勝次長は「到着したときには逆さまになった船底にしがみついた状態で、少しでも遅れたら命の危険もあった。救助における電話リレーサービスの必要性を痛感した」と話した。

アイセック社には4日、救助された男性から「おかげさまで全員無事に帰ることができました」と感謝のメールが届いた。